

【第3号議案】(報告事項)

2024年度事業計画書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

2050年に向けた長期ビジョン・ロードマップを念頭に、本部の理事会および委員会、各支部の活動をベースに、対面およびWEBも活用しながらいっそうのコミュニケーションを図り軽金属に関する事業を進める。中心となる研究活動では、基礎技術の継承および深堀、新たな技術の取込を推進し、世の中の変化に対応した活動に取り組む。脱炭素化に関連した研究部会や先行研究部会の促進、例えば水素やアンモニアなどの次世代エネルギー、熱に関わる課題を取り上げ、生産技術者の学会参加勧誘を推進する。従来から重きを置いてきた産学連携では基礎研究とものづくりの課題を連携するフレームワークの構築も進める。USAアトランタで今年度開催のICAA19(第19回アルミニウム合金国際会議)への参加を通じての海外研究者との交流をはじめ、国際連携強化なども継続し、本会のプレゼンス向上を図る。

正会員の増加を進め、2050年には会員2000人を目標とし、若手研究者、女性研究者、支部会員、生産技術者等の育成、支援、連携を強化し、学会の多様性を促進する。次世代の技術者、研究者を育成する活動を継続し、例えば小中高生の体験プログラムなどを活用していく。マンネリ化している活動や手続きは合理化し、次の世代により良い体制づくりを進め、会員から魅力ある学会運営に努める。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋大会の開催

1)第146回春期大会 (ハイブリッド開催:現地講演発表、WEB視聴参加可能)

会期	:2024年5月10-12日
会場	:名古屋大学 東山キャンパス
実行委員長	:小橋 眞(名古屋大学)
定時総会	:2024年5月10日 名古屋大学・東山キャンパス
研究発表講演	:2024年5月11-12日
表彰式	:2024年5月10日
懇親会	:2024年5月11日 名古屋大学・東山キャンパス 生協南部食堂
機器・カタログ展示	:2024年5月11-12日
企業招待講演	:2024年5月11日
男女共同参画セッション	:2024年5月11日 「研究力強化を目指した子育て共助ネットワークから見えたもの」
市民フォーラム	:2024年5月10日 「宇宙線ミュオンイメージングによるクフ王ピラミッドの新空間の発見」

2)第147回秋期大会 (ハイブリッド開催:現地講演発表、WEB視聴参加可能)

会期	:2024年11月8-10日
会場	:群馬大学 太田キャンパス
実行委員長	:半谷禎彦(群馬大学)
研究発表講演	:2024年11月9-10日
表彰式	:2024年11月8日
懇親会	:2024年11月9日
機器・カタログ展示	:2024年11月9-10日
企業招待講演	:2024年11月9日
男女共同参画セッション	:2024年11月9日
市民フォーラム	:2024年11月8日

2. シンポジウム、セミナー、見学会等の開催

参加者の利便性を考え、オンライン、ハイブリッド方式により、以下を開催する。また、オンライン開催したシンポジウムやセミナーの講演録画のアーカイブ化による会員サービス・有効利用方法を検討する。

- ・第132回シンポジウム「カーボンニュートラルに対応する自動車へのアルミニウム活用最前線」 (2024年8月2日)
- ・第133回シンポジウム「アルミニウム製品の生産を効率化するCAE解析技術の現状と今後(仮題)」 (2024年秋予定)
- ・第134回シンポジウム「アルミニウムの水素脆化・応力腐食割れの最前線」 (2024年秋予定)
- ・他カーボンニュートラル、生産技術をテーマとしてシンポジウムを企画
- ・軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」 (2024年11月21日～22日)
- ・第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第14回 (2024年12月)
- ・第33回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第13回 (2025年1月)
- ・第34回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第11回 (2025年2月)
- ・中堅企業向けセミナー、講習会(支部単位で実施)

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第4条第1項第2号)

1. 国際交流

1)ICAA19(アルミニウム合金国際会議)への国際委員の参画

2024年6月23日～27日にアトランタで開催されるICAA19の学会ホームページへの掲載、会員への案内と参加を促し、また、

国際委員の参画により、次回以降への対応について検討し、国際交流を推進する。

2)ALMA(Asian Light Metals Association)

COVID-19の影響を受け、2022年開催予定であったALMA Forum & Meetingを2023年に開催。ALMA Meetingにおいて開催時期を偶数年とすることで共通認識し、次回は2026年に開催することで合意した。ALMA2026に向けたテーマ(環境、エネルギー)、参加国、開催時期を検討し、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアから軽金属の学術研究・技術開発に関する動向や最近のトピックスを講演。また、アジア地区の軽金属関係の研究者・技術者のネットワークづくりを強化する。

3)タイ技術講習会

2023年9月に開催したタイ技術講習会において、関係者との協議の上、同講習会を2年毎に継続的に開催することを決定した。タイにおけるアルミニウム産業の技術的なニーズに対応すべく、板、押出、鍛造、鋳造の生産技術を中心に接合や表面処理等の要素技術について内容を充実させるべく、タイ技術講習会2025に向け、講義内容、時期、講師を企画する。

4)学会の国際化、国際連携、国際ワークショップ

国際ワークショップを計画し、海外の研究者と取り組んでいる共同研究の成果などを広く紹介すると共に関連分野の研究者とディスカッションする機会を創出し、軽金属に関連する国際連携活動の一助とする。また、前2回の「欧州最大の応用研究機関Fraunhoferによる産学連携の仕組み及び最新の応用研究」に引き続き、国際ワークショップを企画・開催し、意見交換を行う。

5)国際賞の検討

海外との連携強化、海外への情報発信・共有による本学会のグローバル化とインパクトファクター向上のための国際賞設立を検討する。国際賞の位置づけを協議し、方針を明確化したうえで軽金属奨学会とも連携をしつつ、慎重に進めていく。

2. 産学官の連携

参与会を年2回開催し、産学官の密接な連携のもとに、軽金属の将来に対する意見交換を行い、特にユーザー側からの助言を得る。特に2050年カーボンニュートラルに向けた次世代エネルギーをテーマに具体的な対応につき研究機関や企業を訪問する。2024年7月には産業技術総合研究所・福島、11月は東邦ガスの見学会および講演会開催を計画する。

3. 他学協会との連携

日本学術会議、材料連合協議会幹事会、材料戦略委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、軽金属奨学会、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本鉄鋼協会、日本機械学会、日本アルミニウム協会、日本マグネシウム協会、日本チタン協会、日本チタン学会、軽金属溶接協会など、他学協会との講演発表、シンポジウムの共催、協賛などの協力を積極的に行う。

また、男女共同参画学協会連絡会の夏の学校、シンポジウムに積極的に参画し、軽金属学会紹介パネル、軽金属製品展示、軽金属を利用した実験などを行う。

軽金属溶接協会とは溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春秋講演大会での優秀ポスター発表表彰を継続する。さらに異材接合委員会との意見交換を行い、将来のための異種金属接合に向けた技術およびメカニズムの解明を推進し、それぞれの方針を明確化することで、研究部会活動につなげる活動を推進する。また、2021年度に軽金属奨学会の協力を得て始めた共同刊行誌Mater. Trans.のインパクトファクター向上を目的とした投稿助成事業を継続し、内外の著名な研究者の解説論文投稿勧誘を推進する。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第4条第1項第3号)

1. 会誌「軽金属」の刊行

本年度は第74巻4-12号、第75巻1-3号までの12冊を刊行する。第74巻4号から「マグネシウム合金の基礎と応用」の連載講座をスタートし、第77巻2号まで22回の連載予定である。また、毎年9号ではミニ特集として「アルミニウムによる脱炭素化社会に向けた取組み」を継続的に掲載する。第75巻2号は「7000系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」、第75巻3号は「軽金属の加工熱処理工程における組織形成」特集号の刊行を計画し、それぞれ2024年7月と8月を締切に原稿を募集する。

2. 研究部会報告書の刊行

2022年度終了の2部会「アルミニウム溶湯による耐火物の損傷プロセス研究部会」「高強度アルミニウム合金研究部会」の成果報告書を刊行する。2023年度に終了した6部会「押出材組織に起因する欠陥検討部会」「アルミニウム中の水素と材料物性研究部会」「汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会」「アルミニウム接着接合研究部会」「加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会」「LPSO/MFS構造材料研究部会」は2025年3月31日を目標に成果報告書を刊行する。

3. 研究部会報告書、シンポジウム・セミナーテキスト、概要集の電子書籍刊行、研究部会報告書やテキストの無料閲覧

第135回秋期大会から開始した大会概要集の電子化を第146回春期大会、第147回秋期大会も継続する。また、ハイブリッド式で開催したシンポジウムやセミナーの講演録画・テキストのアーカイブ化などにより、会員サービス・有効利用方法を検討する。会員特典として、2023年6月から開始した研究部会報告書やシンポジウム・セミナーテキストなどの刊行物の学会ホームページ会員マイページでの無料閲覧サービスを継続する。

[4]研究及び調査の実施(定款第4条第1項第4号)

1. 研究部会

2024年度は後継部会として4部会、先行研究部会から研究部会を新設する3部会の活動を開始する。この結果、既設6部会

と2023年完了予定のマテリアルズ・インフォマティクス研究部会を1年延長し、合計14部会で活動する。

	研究部会名	課題
1	マテリアルズ・インフォマティクス研究部会【1年延長】	データベースを中心としたプロセス・材料組織・材料特性の相互の関係を機械学習により分析するシステムの検討および開発を行い、これらの技術を軽金属材料の研究・開発に適用することを目指す。本研究部会では実験データの収集・分析に重点を置き、補完的に理論計算する。
2	アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会	新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得とともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を目的とする。
3	6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動や β'' 相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。
4	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会	製造コスト削減・省エネ活動や少子高齢化、人手不足対策として、属人性排除、省人化、設備・機械の自動化が急務である。本部会ではアルミニウム圧延における各種計測機器・センサーに焦点を絞り、各社の活用・改善事例の紹介とあるべき姿と現状との乖離を議論し、最終的にはデジタル技術を活用した圧延機・付帯設備のスマート化につながる研究部会としたい。
5	7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会	焼入れおよび時効条件が微視組織や強度、耐SCC性へ及ぼす影響について、大学および企業の最先端の研究技術の集結により、電子論を含む新たな視点から検討し、時効硬化メカニズムの理解を達成することを目的とする。
6	中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会	前研究部会ではアルミニウム合金 A6063の550°C近辺の圧縮試験法の検討およびアルミニウム合金板材の引張曲げ変形での変形抵抗式の構築などを行ってきた。高温下では端部の潤滑プールなどを考慮したが、圧盤－試験片間の摩擦の影響や温度差による材料内部のひずみ・温度の分布などの問題が解決できていない。この解決にはこれらの影響をさらに軽減する新たな試験方法の開発、もしくは解析における補正の方法を詳細に検討する必要がある。
7	アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会	アルミナ-シリカ系耐火物の劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積する。従来、十分に評価されていなかった溶湯流動による耐火物溶損、アルミナ質以外の酸化物、非酸化物系耐火物の劣化挙動も調査対象に含まれる。将来的なゼロエミッション電源を鑑み、いずれの評価も電気抵抗加熱を基本とする。
8	押出加工中の溶着制御検討技術研究部会【後継】	アルミニウム合金押出成形材は、特に溶着部の欠陥を予測し制御することが必要であるが、生産現場での対応は十分ではない。押出合金として適用される6000系および7000系合金の基礎データも不十分である。そこで、A6063合金における溶着状態に及ぼすポートやチャンバー形状の影響を分析するとともに、A7003や7N01合金での溶着不良となる流動状態を調査する。
9	アルミニウム合金中の水素評価研究部会【後継】	アルミニウム合金の特性向上に焦点を絞り、材料物性に及ぼす水素の影響を実験やシミュレーションから、高精度でかつ多角的に評価・解明する。また、水素や水素に関連する欠陥を除去、ないしは制御による特性改善を試みる。水素とアルミニウムの関係の基礎事項や最新の研究成果の情報交換・収集を通じてそれらの研究活動を共有し、水素の影響を解明する。
10	マグネシウムのためのマテリアルDX研究部会【後継】	マグネシウム合金開発への、マテリアルDX(データ科学を活用した研究開発の効率化・高速化とこれらを通じた研究開発環境の魅力向上)の適用可能性を検討する。マグネシウムの機械的特性、成形性、耐食性等を対象として、データ科学を専門としない研究者が利活用可能なマテリアルDX技術を創出する。加えて、国内のマグネシウム産業のロードマップの作成等も進める。
11	キンク研究部会【後継】	長周期積層構造型マグネシウム合金がキンク変形によって強化することが見出された。最近では、Mg基、Al基、Ti基の合金創製が行われ、長周期積層構造以外の硬質/軟質層状物質でもキンク強化することが明らかになった。今後、キンク強化する硬質/軟質層状物質の拡大と実験・観察・計算科学によるキンク強化メカニズムの解明ならびにキンク強化理論の構築が必要である。そこで、キンク強化する材料の創製をさらに推進し、キンク強化メカニズムの解明とキンク強化理論の構築を行い、キンク強化法の学理構築を目指す。
12	アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会【先行⇒新設部会】	サーキュラーエコノミーの実現に向けたアルミニウム合金のリサイクルでは、不純物元素の制御が不可欠である。そのためには、不純物除去や不純物制御による許容量拡大が必要となる。よって、不純物増加に伴う材料特性への影響および改善方法について、晶出物等のマイクロ組織と結びつけ、これらの課題の明確化を目的とする。
13	アルミニウム層の合金判別研究部会【先行⇒新設部会】	アルミニウムのスクラップ利用で最も問題となるのは、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金の混合による不純物元素の増加であり、その抑制にはスクラップ(固相状態)で適切な選別が必須である。よって、アルミニウム合金判別のための基礎データを構築し、選別技術発展の礎を築くことを目的とする。
14	アルミニウム溶解工程におけるMg,Fe低減技術研究部会【先行⇒新設部会】	CNへの対応として市中スクラップの利用要求が高まる中、市中スクラップを溶解したアルミニウム溶湯中ではMgやFe量が増加し、これに伴い製品の品質低下が懸念される。よって、アルミニウム溶解工程におけるMgとFeを除去する技術として、酸化物によるMgの除去と、B化によるFeの除去について基礎原理および生産現場へ実装可能なプロセスを検討する。

2. 先行研究部会

昨年度発足した先行研究部会(9部会)のうち、3部会は研究部会として新設し活動する。他6部会については1年延長し、研究部会新設に向けさらに研究内容を精査し、課題の明確化と研究部会を新設した際の取組を具体化していく。

	先行研究部会名	1年延長理由
1	サーマルマネジメント材料技術先行研究部会	生産技術系部会として、熱エネルギーに関わる様々な問題を取り扱うサーマルマネジメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムなどの軽金属材料の新用途開発への展開の足掛かりを明確化するため議論した。その結果、対象材料の選定、高熱伝導化、異方性の付与、機械的性質と熱伝導性の両立、界面熱伝達率の評価法の確立および学術的解析、金属材料や複合材料の組織制御、材料表面の形態などを重要課題とした。よって、一年延長し、テーマの具体化、部会内での協力体制の確立、共通認識の形成、ニーズに適合した活動などを具体化する。
2	H ₂ 貯蔵用アルミニウム合金先行研究部会	H ₂ 貯蔵用アルミニウム合金の評価や評価基準設定の必要性を議論し、その結果、水素材料物性部会(2023年度が最終年度)の後継部会となって研究部会へ移行することは、困難であると考えた。一方、当先行研究部会主導で、2024年1月19日に第129回シンポジウムを企画・開催、参加者多数で質疑も多かったことからニーズの高まりを実感し、現段階で研究部会設立の要否を決定するには部会員で十分な議論ができていないことから、1年延長する。
3	アルミニウム表面処理廃液課題検討先行研究部会	アルミニウム表面処理における廃液処理の課題と解決法を調査し、次の研究部会の実施内容を確定するため、昨年度は、実施しているアルミニウムの表面処理の確認、現状の問題確認、今後の方針を議論し、また、方針決定のためのアンケートを実施した。アルミニウムの表面処理は化成処理や陽極酸化、めっき、アルカリ洗浄と幅広い。そのため、表面処理で排出される溶液も多種多様となっているため、1年延長し、研究部会新設に向け実施内容及び方針を確定する。
4	異種金属接合と組織形成メカニズムによる接合信頼性検討先行研究部会	異種金属接合について、材料選定、接合技術および条件、適切な接合法が重要であり、さらに、生産性や接合信頼性を確保するには、接合界面形成メカニズムの解明が重要となる。そこで、対象とする材料の選定、接合方法、評価法などを協議した。接合法や評価手法について様々ある中で選定することができなかったため、1年延長し、実用構造体を考慮した材料、接合技術の選定とともに生産性を考慮した評価法を明確化し、次年度における研究部会新設を目指す。
5	アルミニウム産業に関する工学的かつ経済学的な計量計算先行研究部会	脱炭素社会に向け、アルミニウムの軽量性、リサイクル性等を訴求するため、工学的かつ経済学的に検証されたアルミニウムの特質に関する数値の確立のため、アルミニウム産業における計量化の方法論の確立を目指し、①日本のアルミ全体でのマテリアルフローの計量計算の手法の検討、②アルミのCO ₂ 負荷量の計量化について、新地金、再生地金及び圧延品等のLCI計算の蓄積、③主要な製品3品目(EV、サッシ、エアコン)について、CO ₂ 削減効果の計量化を進め、研究部会設立に向けたより一層の情報入手が必要なため、1年延長する。
6	次世代アルミニウム溶解技術先行研究部会	溶解燃料として水素やアンモニア、電気等が提案されているがそれらを用いた時の被溶解材や炉体への影響、その他の導入における課題などが明確ではない。対象となる非化石燃料の推進は業過でも課題となっているが、その影響は明確でなく、文献調査などの情報の確保によるメリット、デメリットを精査し、化石燃料との違いを明確化する必要がある。そのため、1年延長し、必要な情報を習得しつつ、研究部会として取り組むべき課題を精査する。

3. 日本アルミニウム協会とのロードマップ更新協業

日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ」改定に合わせ、軽金属学会で作成したサイエンスロードマップや昨年作成した長期ビジョン・ロードマップを更新する。

[5] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

1)第27回軽金属学会賞、2)第26回軽金属学会功労賞、3)第22回軽金属功績賞、4)2024年度軽金属論文賞、5)2024年度軽金属論文新人賞、6)第59回小山田記念賞、7)第47回高橋記念賞、8)第42回軽金属奨励賞、9)第23回軽金属躍進賞、10)第16回軽金属女性未来賞、11)2024年度軽金属希望の星賞、12)軽金属学会企業奨励賞の選考および表彰を行う。表彰式は、1)-3)は第146回春期大会の2024年5月10日(金)に、4)-10)を第147回秋期大会の2024年11月8日(金)に行う。11)は2025年2月末までに盾を各大学へ送付し、卒業式・修了式など相応しい時期に表彰する。12)も年度末に各支部にて行う。また、春秋大会において、それぞれ優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞の表彰を行う。

[6] その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第4条第1項第6号)

1. 人材育成

大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・貸与による啓蒙企画、軽金属科学実験室WEBサイトの実験事例拡充、担当教員・小中高生対象の工場見学会、大学学生への維持会員企業採用情報を提供するWEBサイト(ライトメタルリクルート)運営、WEBサイトの研究室/研究機関紹介、アルミニウムの製造工程、バーチャル工場見学の掲載件数拡充に加え、対象を小学生まで拡大し、WEBサイトから情報発信する。日本アルミニウム協会の協力のもと、維持会員企業のインターンシップ募集情報のWEB掲載を実施する。また、各支部においては講演会・ポスター発表(高校生も含む)など、若手人材育成に関わる事業を実施する。また、企業の生産技術者の表彰制度検討を行う。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

春秋大会時に、若手の会、女性会員の会を開催する。春秋大会時に男女共同参画セッションを開催し、軽金属学会の男女

共同参画に寄与する啓発、普及活動を実施する。第146回春期大会では、第10回男女共同参画セッションにて「研究力強化を目指した子育て共助ネットワークから見えたもの」をテーマに名古屋大学上川内あづさ教授、田川美穂教授を講師とし、研究活動、子育ての工夫、研究者同士のネットワークの有用性を講演。若手の会では、第2回見学会を名古屋近郊の工場や施設を利用し実施する。第147回秋期大会では若手会員向けの企画を検討する。これらを通じて、若手会員、女性会員の増強につなげる。また、第145回から懇親会への子ども同伴を開始し、第146回ではノンアルコールエリアを設定し、子育て中の若手研究者への親子同伴参加の試行を継続する。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援」を計画する。各支部にある公設試験研究機関などの協力により、中堅企業との交流を深め、当会の認知度を高め、支部セミナー、企業見学会、WEB技術相談室、研修会、出前講座、HP質問コーナーなどにより、中堅企業の人材育成や課題解決を支援する。また、春秋講演大会においても、企業研究会・企業招待講演を実施し、二次加工、ユーザー企業と情報交換する。優れた製品開発、技術開発を行った中堅企業の企業奨励賞表彰も実施する。

4. 支部活動

1)北海道支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

①支部理事会、支部評議員会(5月にハイブリッドで開催予定)

①支部講演大会 2024年10月(札幌)

②講演会 随時

③他学協会支部講演大会等への協賛

・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同

サマーセッション(7月)と講演大会(2005年1月)に協賛

・工場見学会とセミナーの協賛

(一社)表面技術協会と(公社)腐食防食学会北海道支部主催、

工場見学会と2024年北海道夏期セミナーに協賛

3. 人材育成

①若手育成支援事業

4. 表彰関係

①軽金属希望の星賞一次選考、推薦

②学生優秀講演賞

5. 維持会員加入勧誘活動

①訪問活動継続

2)東北支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

役員会(2回)

①主催講演会(2回)

②共催・後援行事(3回)

3. 人材育成

①東北大学金属材料研究所ワークショップ/日本バイオマテリアル学会

東北ブロック交流会(仙台市)若手支援

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属希望の星賞一次選考、推薦

③軽金属学会賞、軽金属学会功労賞推薦

5. 維持会員加入勧誘活動

①イブニングセミナー開催

②軽金属学会企業奨励賞推薦

3)関東支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

①支部運営委員会ほか

第1回運営委員会・大会実行委員会(4月24日、ハイブリッド形式)

総会(9月上旬予定、対面、工学院大学)

2. 講演会等

①第147回秋期大会(群馬大学・太田キャンパス)の実行援助

3. 人材育成

①第10回若手研究者ポスター発表会(9月上旬予定、対面、工学院大学)

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

5. 維持会員加入勧誘活動

④関東支部功労賞選考

①セミナー、訪問活動継続

4)北陸支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

①定例幹事会(2回:4月9日、9月予定)

2. 講演会等

①春期講演会(6月20日 富山大学)

②秋期講演会(11月 ウイング・ウイング高岡予定)

3. 人材育成

①幹事研修会

②若手育成支援事業 6月予定

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

5. 維持会員加入勧誘活動

5)東海支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

①総会

2. 講演会等

②理事会(3回、第1回は運営委員会も兼ねる)

①第146回春期大会(名古屋大学・東山キャンパス)の実行

②講演会(1回)

3. 人材育成

③研究部会(航空機材料部会)

①若手ポスター発表会

②若手の会(軽進会)

③女性会員の会

④中・高生向け工場見学会

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属希望の星賞一次選考、推薦

③軽金属企業奨励賞推薦

5. 維持会員加入勧誘活動

①支部セミナー

②TECH Biz EXPO2024:支部活動展示、講演会

6)関西支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

①支部理事会(2回)

②支部幹事会(2回)

2. 講演会等

①支部シンポジウム

3. 人材育成

①関西軽金属サマースクール

②若手研究者・院生による研究発表会

③大学院生フィールドワーク助成プログラム

4. 表彰関係

①軽金属学会功労賞推薦

②高橋記念賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④軽金属企業奨励賞推薦

5. 維持会員加入勧誘活動

①勧誘活動継続

②出前講座

7)中国四国支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

①役員会

2. 講演会等

①第16回支部講演大会(広島大学)

②研究会(2回)

③若手フォーラム

3. 人材育成

①高校生のポスター発表(岡山)

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考、授与

5. 維持会員加入勧誘活動

①中堅企業R&D支援プログラム、講演会開催

②訪問活動継続

8)九州支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

①役員会(2回)

②例会(2回)

第111回役員会・例会(7月 熊本大学)

第112回役員会・例会(3月 九州柳河精機)

③第148回春期講演大会実行委員会(3回)

2. 講演会等

①合同学術講演会共催(6月九州大学)

3. 人材育成

①若手研究発表会(7月)

②中堅企業支援支部セミナー(7月、3月)

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④合同学術講演会講演大会若手ポスター賞表彰

5. 維持会員加入勧誘活動

①訪問活動継続

②中堅企業支援支部セミナー